

「工程に関する考え方」について（案）

- ◎ 全国学力・学習状況調査の CBT 化に向けて、試行・検証により不確実な要素を段階的にクリアしていくため、また、各学校設置管理者や学校等において必要な準備を計画的に進めていただくため、CBT 化に向けた工程を示すことが必要。
- ◎ 本 WG として、これまでの議論や「専門家会議」における指摘を踏まえ、以下の点を考慮しつつ、現時点における方向性を「工程に関する考え方」として、最終まとめに盛り込んでいただく。
- (1) 調査の実施目的を十全に達成することを前提として、試行・検証により不確実な要素を確実にクリアしていく必要があることから、段階的に CBT 化を進めること
 - (2) 各種調査の実施時期や設計等を踏まえ、経年変化分析調査等、可能なものから CBT 化を順次進めること
 - (3) 着実に CBT に移行するため、PBT との併用が一定期間必要であること
 - (4) 英語「話すこと」調査のような音声を取り扱うものは技術的難易度が高いことを踏まえること
 - (5) CBT 化の全体工程が、教育 DX の動向、GIGA スクール構想の進捗などを踏まえて、それらと整合したものとなること
 - (6) 初期の工程については、試行・検証の結果等や様々な情勢変化に応じて柔軟な見直しが可能なものとして策定し、位置づけること